

農場実習報告②

～初めに～

ご報告が遅くなってしまいましたが11月に引き続き、12月にも農場実習をさせていただきました。前回の実習では、酪農現場の作業の多様さや、牛の状態を日々観察することの重要性を強く感じ、酪農という仕事の奥深さを改めて実感いたしました。今回の実習は、その学びをさらに深め、「酪農を現場で理解する」という目的をより明確に持って臨みました。

～農場実習概要～

今回お世話になった牧場には、搾乳ロボット、パーラー、つなぎ牛舎と、ほぼすべての主要な飼養形態が備わっており、10日間の実習を通して多様な管理方法を体験させていただきました。

搾乳部門では、パーラー・ロボット牛舎・つなぎ牛舎それぞれでの牛の管理と搾乳作業に携わり、各システムの特徴や作業動線の違いを学ぶことができました。哺乳舎では子牛の哺乳や管理に加え、市場への同行も体験し、出生から出荷までの流れを理解する貴重な機会となりました。

分娩牛舎では、分娩前後の牛の管理や疾病予防のための処置を行い、分娩直後の牛の変化や注意点を実際に観察することができました。育成部門では、月齢ごとの管理方法や牛の追い方・接し方を学び、成長段階に応じた対応の重要性を実感しました。

餌部門では、各牛舎・各ステージに合わせた飼料の製造と配送を体験し、飼料管理が牛群全体の健康と生産性に直結することを改めて理解しました。また、繁殖・牛群管理部門では、プログラム授精に沿った繁殖管理、発情牛の発見、各搾乳形態に合うような牛の移動、乾乳期のワクチン接種や乾乳治療など、繁殖サイクル全体に関わる作業を一通り体験させていただきました。

～農場実習をさせていただいて～

今回の実習では、農場内の多くの部門を経験させていただきました。各部門にはそれぞれの役割があり、多くの従業員の方々が連携しながら日々の業務を進めている姿を間近で拝見し、酪農という仕事がいかに多面的で、組織としての協働が不可欠であるかを改めて実感いたしました。

当牧場では、バイオガスプラントによる発電と戻し堆肥の製造設備、最新のロボット牛舎、哺乳舎のカーフレール・ミルクタクシー・哺乳ロボット、繁殖管理ソフトや発情発見装置など、多くの最新機器が導入されており、効率化と省力化が高いレベルで実現されていました。しかし、そのような設備が整っている一方で、今回の実習で最も印象に残ったのは「牛を見る」という技術の高さでした。

発情の兆候、わずかな顔つきの変化、活力の有無、分娩の近さなど、普段との違いを瞬時に察知するスタッフの方々の観察力には、何度も驚かされました。また、「牛を追う」という技術も非常に印象的でした。牛は群れで動く動物であり、その習性を理解したうえで、どの位置の牛を動かせば群れ全体がスムーズに移動するか、そして牛になるべくストレスを与えず、怪我や股裂けを防ぎながら誘導する技術も拝見させていただきました。

私自身も酪農現場に携わる者として“牛を見ることの重要性”は理解しているつもりでしたが、実際の現場でその技術がどれほど高度で、日々の積み重ねによって磨かれているものなのかを体感し、大きな学びとなりました。

～最後に～

ご報告が遅くなりましたが、2月より診療の独り立ちをいたしました。まだ至らぬ点多々あるかと思いますが、今回の実習で得た気づきや学びを日々の診療に活かし、自分にできることを一つ一つ丁寧に積み重ねながら、少しでも皆様のお役に立てるよう努力してまいります。

農場実習でお世話になりました牧場の皆様に心より感謝申し上げます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

星井田 瑛